

授業科目 実践看護学特論Ⅰ	科目概要・形式 2単位 30時間(コマ) 講義科目	配当年次 博士前期1年次 前期開講	オンライン参加 <input type="checkbox"/> ・不可 (下記6, 7参照)
科目責任者	清水 健史		
担当者	清水 健史、出貝 裕子、鳴井 ひろみ、小野 恵子、小池 祥太郎、谷川 涼子、蝦名 智子		
1. 科目のねらい・目標 臨床看護の対象となる患者(療養者)・家族に対する理解を深め、看護実践に活用できる概念や理論について探求する。			
2. 授業計画・内容 ＊この科目は選択した科目担当者が担当します。 【清水 健史】 精神看護の対象の精神状態や発達課題について理解し、精神看護に用いられるセルフケア理論、対人関係理論について理解を深め、実践・研究への適用について探究する。 【出貝裕子】 高齢者とその家族を理解するために、老化理論や生涯発達理論をはじめとした老年看護学の基盤となる諸概念・理論について学び、老年看護実践・研究への活用について探求する。 【鳴井 ひろみ】 がん患者・家族の看護に用いられるストレス・コーピング理論、危機理論、喪失、悲嘆等の理論について理解を深めるとともに、実践および研究への適用について探究する。また、既存の研究結果や文献、個々の体験に基づいて、がん看護の現状の課題を分析し、今後の展望について洞察する。これらを踏まえて、がん看護の質向上をめざした実践・研究・教育への活用方法を探求する。 【小野 恵子】 療養者・家族の在宅生活を支える諸制度の基本と動向を理解し、在宅看護におけるケアマネジメントの展開、および在宅看護の基本となる概念や理論について探求する。 【小池 祥太郎】 侵襲を伴う看護技術を受ける全ての患者に共通する痛みや不安感を理解し、安全・安楽な看護技術を提供するための基本的な概念や理論を探求する。 【谷川 涼子】 小児とその家族を対象として理解するために、小児各期の成長・発達理論やストレス・コーピング理論など小児看護学の基盤となる諸概念・理論について学び、小児看護実践・研究への活用について探求する。 【蝦名 智子】 母性(周産期)看護の対象となる女性と家族および周産期に関連する動向や今日的課題について理解し、その解決方法や支援方法の基礎となる概念や理論を探求する。			
3. 教科書、参考書			
特に教科書は指定しない。各教員が資料を配布または講義中に紹介する。			
4. 成績評価方法 「レポート30%」「プレゼンテーション40%」「授業への取り組み30%」で評価する。			
5. 受講要件 なし。			
6. 社会人学生に対する配慮			

夜間開講を基本とするが、受講生と相談の上、履修時間を調整する。
オンライン授業対応可能。

7. その他

オンライン授業の場合は、Zoom あるいは Webex を使用する。